

南那須地区広域行政事務組合  
一般廃棄物処理施設整備基本計画（し尿処理施設）検討委員会  
第2回議事録（要旨）

【開催概要】

開催日時：令和5年2月8日(水) 13時30分～15時00分

開催場所：南那須地区広域行政センター 2階会議室

【出席者】

〔委員〕

No.	区分	団体名等	氏名	備考
1	学識経験者	公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄	
2		宇都宮大学 名誉教授	三橋 伸夫	欠席
3	那須烏山市	那須烏山市 副市長	熊倉 精介	
4		那須烏山市 参事兼総合政策課長	菊池 義夫	代理出席 (関)
5		那須烏山市 まちづくり課長	大谷 光幸	
6		那須烏山市 都市建設課長	佐藤 光明	
7		那須烏山市 上下水道課長	高田 勝	
8	那珂川町	那珂川町 副町長	内田 浩二	
9		那珂川町 企画財政課長	小松 重隆	
10		那珂川町 生活環境課長	薄井 亮	
11		那珂川町 建設課長	佐藤 裕之	
12		那珂川町 上下水道課長	益子 泰浩	
13	組合	事務局長	小口 正一	

〔事務局〕

No.	区分	団体名等	氏名	備考
1	組合	保健衛生センター所長兼施設整備室長	熊田 則昭	
2		施設整備室係長兼衛生センター係長	堀江 辰徳	
3		衛生センター専門員兼施設整備室専門員	塩野目 修一	欠席
4		衛生センター主事兼施設整備室主事	南木 桃子	欠席
5	那須烏山市	上下水道課担当者	安藤 準一	
6	那珂川町	上下水道課担当者	長山 康志	
7	コンサルタント	株式会社エイト日本技術開発	長尾 竜二	
8		株式会社エイト日本技術開発	勝見 慧	
9		株式会社エイト日本技術開発	細川 和也	欠席

## 1. 開会

## 2. あいさつ

## 3. 議題

### (1) 施設規模について

- ・資料1の施設規模についての説明をお願いします。(委員長)  
→事務局より説明。(事務局)
- ・意見、質問があればお願いします。(委員長)
- ・施設規模は40kL/日で検討していくが、令和7年度に見直すということですか。(委員長)  
→次期の循環型社会形成推進地域計画が令和7年度から計画期間となるので令和6年度に見直しになるかと思えます。推計方法としては、下水道処理人口や集落排水施設処理人口等の生活排水処理形態別人口の推計を行い、それらの中でし尿処理施設に入ってくる浄化槽や汲取り尿の人口に各原単位を乗じて推計していく方法になるかと思えます。(事務局)  
→令和12年度に施設稼働とすると令和6年度に最終的な規模を決め、発注するということですか。(委員長)  
→そのとおりです。(事務局)
- ・施設規模は40kL/日と設定するということですが、いかがでしょうか。(委員長)  
→異議なし。(一同)
- ・他に意見はないようですので、施設規模について了承します。(委員長)

### (2) し尿等の計画性状について

- ・資料2のし尿等の計画性状について説明をお願いします。(委員長)  
→事務局より説明。(事務局)
- ・意見、質問があればお願いします。(委員長)
- ・し尿等の性状については、季節変動はありますか。(委員長)  
→季節変動はあります。特に生し尿については、夏場は水分を多く摂るため、尿が多くなり性状は薄くなることがあります。現段階では、性状分析結果を基に性状を設定していますが、今後も施設で定期的にサンプリングし、性状分析のデータを積み上げ、最終的な整備工事の発注時にはもう少し積み上げたデータを提示したいと考えています。(事務局)  
→今回性状分析した性状は濃いようだが、夏は水分が多くなる関係で性状が薄くなる可能性があるため、濃い性状で設定した方が安全であるという事でしょうか。(委員長)  
→そのとおりです。(事務局)
- ・計画性状も現時点では設定値のとおりとし、今後も協議し、工事発注時には追加の性状分析の結果も示していくという事によろしいでしょうか。(委員長)  
→異議なし。(一同)
- ・他に意見はないようですので、計画性状について了承します。(委員長)

### (3) し尿処理方式の選定について

#### ①水処理方式について

- ・資料3のし尿処理方式の選定について説明をお願いします。(委員長)  
→事務局より説明。(事務局)
- ・意見、質問があればお願いします。(委員長)
- ・メーカーアンケート等を含め、今後の検討方法を説明してください。(委員長)  
→水処理方式はメーカーアンケートを行い、建設費や下水道放流の場合の下水道放流料金等も含めたランニングコストをメーカーからいただき、各処理方式で比較して検討していきます。(事務局)
- ・河川放流の場合の水処理方式が浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式の一方式だけに絞られていますが、他の方式は競合せず、あきらかに劣っているのか。詳しく説明していただけますか。(委員)  
→浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式は、前処理設備で脱水をし、汚濁物を除去した後、生物処理を行うのですが、生物処理の方法自体は残りの3方式である標準脱窒素処理方式、高負荷脱窒素処理方式、膜分離高負荷脱窒素処理方式のいずれかで行います。今後メーカーアンケートを行い、検討していきますが、メーカーによっても浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式の生物処理方法は様々な方式が採用されており、必ずしも一方式に縛られる事はありません。浄化槽汚泥が多い場合は、生物処理前に脱水を行い処理するという方法が浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式となります。(事務局)  
→浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式は、標準脱窒素処理方式、高負荷脱窒素処理方式、膜分離高負荷脱窒素処理方式の各方式の前処理として脱水処理があるということですか。(委員長)  
→そのとおりです。浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式では、生物処理前に性状を安定させるために脱水を行います。また、これにより汚濁負荷が低減できるため、処理水槽を小さくできるメリットがあります。今後、メーカーアンケートを行います。浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式に限定しても、し尿処理施設のプラントメーカーが8社程度おりますが、どのメーカーも参入可能なので、浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式に限定しても問題ないかと考えます。(事務局)  
→浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式でもメーカーが限定されることはないということですが、よろしいでしょうか。(委員長)  
→はい。(委員)
- ・それでは、水処理方式については、一次選定で抽出された3方式について今後検討していくという事で進めていきたいと思えます。(委員長)

#### ②資源化方式について

- ・つづいて資源化方式について説明をお願いします。(委員長)  
→事務局より説明(事務局)
- ・意見、質問があればお願いします。(委員長)
- ・選定結果が堆肥化方式、助燃剤方式、リン回収方式になりますが、資源化物の供給先があるか、今後検討して詰めていく必要があると思えます。堆肥については、ごみを原料とした堆肥に比べ、し尿を原料とした堆肥は地域によって需要はありますが、全量を賄

うことは難しく、売れ残るような事例も聞いております。リンについても化学肥料と混合して使用するので、需要先の確保が重要かと思います。(委員長)

- ・他に質問等なければ、今後この提案に沿って検討し、他に提案があれば、また協議を進めていきたいと思っております。(委員長)

#### (4) 委員会スケジュールについて

- ・資料4の委員会スケジュールについて(案)の説明をお願いします。(委員長)  
→事務局より説明。(事務局)
- ・意見、質問があればお願いします。(委員長)
- ・意義なし(一同)

#### (5) その他(次回の日程、内容等について)

- ・第3回については4月に開催予定していますので、後日、日程調整させていただきます。  
新年度始まりで人事等もありますので5月になるかもしれませんので、4月になってから日程調整させていただきます。(事務局)

## 4. 閉会